

ポートランド研修感想

講義日： 2013年8月17日（土）～24日（日）

文責：愛知県豊橋市 大橋史明（研修生）

空高く青空が広がり8時過ぎまで暮れない町には、その陽の長さを象徴するかのように大きく茂った木々が繁り、その町で過ごした1週間は、あらゆる人の思いを五感で感じる調査であった。

【思い】

私は、今までネットワークを広げることに力を注いでいたように思う。チップスが、数人の仲間と議論を重ねて森の駅の建設まで得たこと、インタートワインが多くのパートナーと大きな運動を生み出していること、SWINIやBTAがボランティアや行政と連携して活動を展開していることから、コミュニケーションを深めることが必要であると痛感させられた。私の周りには幸いにも思いを同じくする友人や仲間が多くいる。議論を重ねて、思いを形にしておくことが大切であると気づかされた。

【ふるさと】

ポートランドで見聞きしたあらゆるシステムは秀逸であったが、話を聞くにつれて住民自治と言う視点で大切なことを見失っていたことに気付いた。それは、日本に古くからある道普請や自治会組織の存在である。幸い、私の地元の自治会組織は、行政からも独立しているため、自治会も行政に任せていてもだめだと考えて活動を行っている。ネイバーフッドの活動とは異なるが、ネイバーフッドの活動を応用できるように感じられた。

ホーソンストリートやPSU近くのファーマーズマーケットも新鮮に感じられたが、私の町には毎日場所を変えて行われている朝市がある。しかも有機野菜の朝市もある。自転車道も最近整備が進んできているし、ストリートカーを推進しているのは、私が住む町も同じであることなど、私が住む町の良さとその欠点を、ポートランドを通して見る事ができた。もう一度地元学に帰って足元にある力を見直す必要性に迫られた調査であった。

【これから】

私が、この研修を応募した大きな動機のひとつに研修生とつながるということがあった。1週間以上という期間を過ごすことで、仲間が抱えている課題や実現したい姿を自分事に引き寄せていくことができたことが何よりも収穫であった。そして、朝早くから深夜までいつも笑顔でプログラムを支えてくれたPSUのスタッフからは、何事も楽しむ姿勢を大切にすることと自己表現の意義を学ばせてもらった。

他人の評価を気にする性分であることもあり、週末学校へ通うにつれ内に内にこもり自己表現をうまくできなくなってきたが、ポートランドでの調査を終えて、思いがまず必要であると自信を持って考えられる様になり、辛かったことも前向きにとらえ直すことができるようになったことと一生付き合っていける仲間を得たことが、私にとって大きな成長であった。